

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	4372700874
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス
事業所名	グループホームみなみ阿蘇
訪問調査日	平成 20 年 11 月 24 日
評価確定日	平成 年 月 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOまい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372700874		
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス		
事業所名	グループホームみなみ阿蘇		
所在地 (電話番号)	869-1412	熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石2721-2	(電話) 0967-67-1606
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成20年11月24日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 11.5

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	0 名	要介護2	4 名			
要介護3	7 名	要介護4	4 名			
要介護5	3 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤病院 菊池有働病院 久木野歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南阿蘇の山々に囲まれ、各部屋から豊かな自然がパノラマで見渡されます。開所8年を過ぎ、認知症の対応、個別計画、実践記録も充実し、一人ひとりの生活が大切にされていることがわかります。又、終末期のケアも意欲的に取り組まれています。「ここに来て、生きていることがうれしい」と庭掃除を日課にされている利用者の言動が印象的でした。利用者の期待が高まる中、高いニーズにどのように応えていくかが今後の課題です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の共有の深まりをはじめ改善シートを活用した改善目標による、更なる改善が実行され、今回の外部評価までに事業所での評価をされるなど取り組みがなされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の改善シートを活用しながら、年に2回自己評価しながら気づきを共有し、自ら改善していくシステムが出来ています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に開催されています。委員も2年交代とし、新たな視点を入れる努力がなされています。利用者の活動報告や、外部評価、自己評価への取り組みの報告がなされ、意見交換が行われています。又、運営推進会議委員の中からメンバー交替の意見もあり検討され取り組まれています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	1ヶ月に1回は面会時を活用し預かり金の確認と共に家族の思いを聞き、家族会の立ち上げに向けた準備や、家族の悩み相談や介護方法を共に考えて改善がなされています。毎月の花しのぶ通信で情報の提供がなされていました。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、老人会への参加もあり、庭先の立ち話も日常的にみられ、近所のなじみの人も数名みられるようになっていきます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から理念をもとに個人目標をたてられている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の見やすい場所に掲示され、毎朝の朝礼で唱和されている。新入職員にどう理念を伝えていくかを考えながら日々取り組む努力がなされている。	○	理念があり、組織目標、ユニット目標、個人目標と整合性をとり組み立てられることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族の協力を得ながら自治会、老人会等地域活動に参加されている。又、近所の方が通りすがりに立ち寄る姿も多くなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	6月、10月と半年に1回自己評価を行い、気づきや改善に役立てるようにされている。評価することで自己改善に繋げている。	○	現場の気づき、改善を資料として残されるとより一層の評価の意義に繋がることでしょう。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。委員の意見もあり2年経過したことで委員の交代が行われて新しい風を取り組む工夫がされている。検討内容としては利用者の活動報告や、外部評価等の報告や、質疑に対する回答報告が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政関係者を運動会に招いたり、書類提出時の随時相談や保健師との意見交換、相談が行われたり、地域包括も含め市町村との連携がとられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時1ヶ月に1回は必ず預かり金等の確認を得るようにされている。又、必要時は随時電話連絡が行われている。花しのぶ通信を発行されその中でも職員の異動等も連絡されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や通常の面会時に意見を聞くようにされている。又苦情受付担当者が配置され、表示されている。2ヶ月に1回開催されている運営推進会議に家族代表が参加され、意見交換が行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員が入った場合等馴染みの関係ができるまでは職員を配置を配慮されている。DVDを利用したり新入職員の認知症理解に努力されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場でリーダーや先輩を配置し、相談する際も運営者直接でなく、仲間をおいて相談にのるよう配慮され相談しやすい体制作りをされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの参加は行われている。	○	連絡会などへ職員が思うように参加できないこともあるとの事、参加出来る仕組みや取り組みが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験が行われたり、見学は随時受け付けられている。又、併設の通所介護を利用することで、馴染みの関係ができるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶つき、干し柿作りの指導を利用者から受けることで職員の学びになったり、わらじや干し大根作りなど伝承することができるようにされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず生活歴を聞くようにされ、趣味一覧表を作成し生き甲斐探しをするようにされている。本人の思いや意向だけでなく家族を含めて支えていきたいという管理者や職員の思いがくみ取れる。	○	家族とグループホームがひとつになって共有していく方法を考えたいという思いがあり、良くなってなお寂しさが残る家族の思いを大切にしていきたいと考えられています。その思いが次の課題となっているようです。これからの取り組みを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネが主に立案しそれをチームで共有され、家族等の意向を聞くようにされている。	○	利用者担当制の検討もされています。フェイスシートは1年に1回確認するなど工夫されることが大切です。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に見直しは行われている。経過記録と申し送り記録に同じ内容が記入されることで、申し送りの不備がないようにされているが、経過記録の漏れがある。	○	利用者・家族の意向の基準をどこにおくかを明確にし全体像が見える具体的な目標設定を行うことで、評価や見直しができてきます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所介護とのふれ合いや交流が行われたり、家族帰省時の宿泊も随時対応されている。	○	家族が「ただいま」とこられることもあるとの事。今後も柔軟な支援を期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診や専門医の往診がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアや事業所での看取りが行われている。その過程に職員で何度も話し合いや勉強会が行われ方針の共有に努力されている。	○	職員は利用者の家族であると同時に、あくまでもプロである事を忘れずに利用者・家族に対応されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物等は事務所に保管されている。外来者には名簿記入を依頼するなど、利用者のプライバシー配慮に取り組まれている。日常的に言動に注意しながら対応するよう心掛けておられる。家族了解のもと居室ドアに名札がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムと業務リズムが一体化している中でも、本人の時間に合わせた体制作りがとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者仲間と一緒に食事することでトラブルがある方は職員1人と二人でゆっくりと食事をとることができるよう配慮されている。状況に合わせて準備や後片づけなど一緒に行動できるようにされ、台所と食堂の配置もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴することもできるようチームで検討されたり、ターミナル期の方を簡易浴槽を利用した入浴など支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活の一覧表を作成し活用されている。新しいものを作り出すことができるよう様々な道具やグッズを使うことを考えるなど、常に次の目標に向かって支援するよう配慮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な周辺散歩はほぼ毎日行われ、1月2～3回の買い物外出が支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠されている。安全のためのセンサー、ドア開閉時のベル等の工夫はされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練が行われ、煙探知機は各部屋に設置されている。災害訓練時は運営推進会メンバーや家族参加もあっている。	○	今後は地域消防団にグループホームの間取り等を知ってもらうためにも参加呼び掛けが予定されています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は毎食時、食間にコップ1杯は必ず飲用するように確認されている。食欲低下時は家族、医師と相談しながら好きな物を食べる事ができるよう配慮されている。飲み込みが悪い人等はトロミやゼリー状、アイスクリーム等の代替え食品等も利用されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所にはペーパータオルを配置したり、ウェルパスで手指の消毒をするようにされている。季節感がある物を飾り付けたり工夫されたり手摺り設置や床の張り替えなど居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に観葉植物を配置し加湿の役割をするよう配慮されている。又、入居時は努めて馴染みの品を持参していただくよう配慮されている。		